

# 金融政策が労働市場に与える影響

## 概要

金融政策は労働市場にどのような影響を与えるのか。本論文では、金融政策の外生的な変化を識別し、日本銀行の金融政策が労働市場に与える影響を実証的に分析した。具体的には、政策金利の外生的な変化（金利ショック）と景気見通しの変化（情報ショック）が、労働需要、労働供給、および賃金に与える影響を検討した。分析の結果、第一に、金融政策は労働市場全体に有意な影響を及ぼしていた。特に、情報ショックは有効求人倍率と労働供給を増加させる一方、実質賃金を低下させることが確認された。第二に、金融政策の影響は主に正規雇用の労働者に見られ、非正規雇用への影響は限定的であった。これは、従来の研究が示唆してきた「非正規雇用の労働者が景気循環の調整弁として機能する」という仮説が、深刻な景気後退時にのみ適用される可能性を示唆している。第三に、労働市場への影響は情報ショックを通じた効果のみが確認された。金融政策の効果を適切に評価するには、金利ショックだけでなく情報ショックの識別が不可欠であることを示している。

*Keywords:* 金融政策ショック; 時給; 情報ショック; 賃金; 労働時間;